

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう 郷学郷就県づくり」

日時 平成29年1月25日（水） 午後3時55分から5時15分まで

場所 佐久長聖高等学校 1号館4F アクティブラーニングルーム

目次

1 開会	P 2
2 校長あいさつ	P 2
3 知事あいさつ	P 3
4 意見交換	P 4
5 知事総括コメント	P 22
6 閉会	P 24

【参加者】

佐久長聖高等学校（生徒、教諭） 24人

長野県知事 阿部守一

私学・高等教育課 課長 青木淳

1 開 会

【広報県民課】

皆様、お待たせいたしました。ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。

さて、本日の県政タウンミーティングは、「郷学郷就」について、生徒の皆さんや先生と意見交換を行ってまいります。「郷学郷就」とは、信州で学び続けていただきたい、そして信州で働き続けていただきたいという意味を含めた言葉です。限られた時間ではございますが、皆様から率直な意見や提案をいただきながら、ともに考える機会にしたいと思っております。

なお、本日の意見交換の内容は、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきますので、ご承知おきください。

本日、県からの出席者は、阿部知事と、私立学校を担当しております、私学・高等教育課長の青木淳でございます。よろしくお願いいたします。

また、本日は手話通訳をお願いしております。長野県では、昨年3月に手話言語条例を制定いたしました。障がいのある方もない方も、互いに支え合いながらともに生きるために、誰もが手話に親しみ理解を深めていく長野県を目指しております。

それでは、これからおおむね1時間、意見交換に入ってまいります。開会に当たりまして、佐久長聖高等学校の佐藤康校長先生からごあいさつをいただきます。よろしくお願いいたします。

2 校長あいさつ

【佐藤校長】

皆さん、こんにちは。本日は、阿部知事を初めとします県の皆様、多くご来校いただいたことに対しまして歓迎を申し上げ、感謝も申し上げたいと思います。ありがとうございます。

こういう素晴らしい時間をつくっていただき、生徒たちも楽しみにしていたと思います。ぜひ正直なところを意見交換をしていただいて、長野県のすばらしさ、それから自分自身の夢、そういうものを語っていただければというふうに思っております。

それから、日曜日だったんですけども、長野県が駅伝で優勝しまして、中学生以外はオール長聖で、社会人の上野選手も長聖のOBということで、そういう意味では本当にオール長聖の戦いだったということを阿部知事にご報告したいなと思っておりました。

では、私の話は以上にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【広報県民課】

それでは、阿部知事のほうからごあいさつ申し上げます。よろしくお願いいたします。

3 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

佐久長聖の皆さん、こんにちは。長野県知事の阿部守一です。どうぞよろしくお願いいたします。今日は佐藤校長を初め、佐久長聖の皆様方には、こういう場を設営していただき、また、温かくお迎えいただき、大変ありがとうございます。

佐久長聖、先ほど駅伝の話もありましたけれども、長野県の高校の中でも文武両道で活躍いただいておりますことを、まず感謝申し上げたいというふうに思います。

テーマの「郷学郷就」ってちょっとわかりづらいかもしれないですけども、郷土で学ぼう、郷土で働こうということで、今、日本全国、地方創生という取組をやっていますけれども、長野県も人口がどんどん減少しています。毎年、1万数千人の規模でこれからどんどん人口が減っていくということが予測されています。そういう中で、もちろん人口が減っていい部分も全くないわけじゃないけれども、いろいろな社会保障制度のあり方を考えたり、あるいは町の賑わいを考えたり、いろいろなことで人口が減少していくことによる負の側面というのが出てきます。人口減少は避けられないにしても、急激な人口減少を避けていきたいというのが、地方創生の主な狙いです。

そういう話だけだとあまりにも無味乾燥すぎるので、私、「郷学郷就県づくり」ということで、やっぱり信州、あるいは佐久で住み続けたいよねと、あるいは学びたいと思うことを学べるよねと。そういう地域をつくることによって住み続けられる県、あるいは長野県は、移住したい県ナンバー1であり、移住される方が実際に多い地域です。県民が定住するだけではなくて、県外からも定住者を迎え入れることができる、魅力ある県にしていきたいというふうに思っています。

魅力ある県にしていく上では、我々行政が頭の中だけで考えているような話では、多分、本当に魅力ある町や地域にはならないだろうと思っています。今日はぜひ、フレッシュな皆さんの夢や希望を出してもらって、こんな地域になったらもっと楽しく住めるのになとか、こんなことを解決してくれればもっといい地域になるんじゃないかと、あるいはこんなことをやってくれば、一遍、県外の大学に出ていっても私は戻ってきたくなくなるよねとか、そういうことを今日は聞きたいなというふうに思っています。

ぜひ、限られた時間ですけれども、率直なお話をさせていただいて、一緒になって未来の長野県をつくってってもらいたいなというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっと、最初にできなかつたんで、僕のあいさつ、もう一回、手話で。

(手話であいさつ)「皆さん、こんにちは。私は長野県知事の阿部と申します。よろしくお願いいたします。」

「こんにちは」ぐらいはみんなも覚えてね。「こんにちは」と「ありがとうございます」、
「おめでとうございます」、あと「さようなら」、大体それぐらいあれば何とかかなりますので、ぜひ皆さんもこの機会に手話に関心を持っていただいて、片言でもいいですから覚えていただけると、耳が不自由な皆さんはすごく喜ぶと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 意見交換

【広報県民課】

ありがとうございます。では、初めに進路状況につきまして、学校からお話しいただきたいと思います。

【教諭】

本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。佐久長聖高等学校の進路を担当しております。主として県内の進学状況について、お話をさせていただければと思います。(進路状況の説明(省略))

次年度、今年度の4月からということになるんですが、県内で私立大学の公立化、あるいは学部・学科の新設ということが相次いできまして、生徒が学びたいというふうに考える学科系統の増加とか、あるいは経済的な利点というものもあって県内を考える生徒、あるいは本校の場合、寮がございますので、県外から来て県内の大学に進学するという生徒も徐々に増えてくるというふうに思っております。

実際に現在の高校2年生、新3年ということになりますけれども、進路状況調査みたいなところで、早くから県内の大学へ進学を希望する生徒が、例年に比べては増えているんじゃないかというふうに思っております。

次に、本校の県内の進学先を生徒に紹介するという取組なんですけれども、7月に信州大学の医学部医学科の地域枠、長野県内で働く意思の強い県内高校出身者向けの入試とい

うものについての説明会を、信州大学の先生に来ていただいて行っております。それから信州大学全体の説明会というの、9月に行っております。

それからあとNPO法人にご協力をいただいて、本校から生徒4名、大学にインタビュアーということで派遣をしまして、その内容を情報誌としてNPO法人の方にまとめていただいていくという活動をしております。10月には代表者1名、他校の生徒と一緒に県庁の方へまいりまして、今、県知事のところのお手元にだけあるんですけども、こういう形で県内の高校のまとめをするというようなことも行っております。

最後に、今後とも県内外に生徒を送り出していく中で、長野県内の進学先についても、さまざまな機会を通じて、生徒への情報提供を行っていきたいというふうに考えておりますので、私からは以上です。

【広報県民課】

それでは、どなたでも結構ですので、どんどん発言していただきたいと思います。お願いいたします。

【生徒】

このような機会を開いていただき、ありがとうございます。

この「郷学郷就」ということで、自分の志望している大学というものについて考えたとき、今、自分が第一志望として挙げている大学は、県外大学なんですね。その中で考えていって、こんなことがあったら、この県内だったらいいのになっというように、3点ほど出てきましたので、少し長くなってしまいかもしれませんが、言っていきたいと思います。

まず1つ目なんですけれども、今現在、まだ1年生ということでよくわからないところはあるんですが、やはり先輩たちの声を聞いていくと、全国的に視野を向けていかないとどうしても大学、国公立大学に受かっていくことが難しいというような状況が、今現在あるということで。やっぱりそこに関しては、個人の努力ということが最も大事なことになると思うので、それは自分でこう頑張っていくと。

2つ目なんですけど、ここからお願いになるのですが、ちょっとこの県内の大学について考えたとき、少し特色というものが無いのかなという感じがしました。特色っていうものは何なのかって考えてみますと、特色、つまりこの大学のことを知ってもらっかけだと思っんですよ。今、自分はこの私立の佐久長聖高等学校というところに在籍していますが、佐久長聖中学校から入ってきているんです。どうして佐久長聖中学校に入っのかとい

う理由なんです、国公立を考えたときに、どこの職場にも、学校に限らずいろいろなところに、いい先生・悪い先生、ちゃんと働く人・ちゃんと働かない人っていうのがいると思うんですが。国公立の場合、その先生たちがどうしても回ってしまうんですよね。それがちょっと不安だなと思ったんです。佐久長聖高校・中学に入れば、先生は固定で、悪い先生については学校側からちゃんと指導が入って、しかもちゃんとそのまま一緒に上がっていくわけだから、生徒側、そして教師側からお互いに近づいていって、一緒に意見を合わせていけるんじゃないか、そんなことを思ってこの学校に入ってきたんです。これも一種の国公立と比べたときの特色だと思うんです。この特色っていうものを選んでこの学校に入ってきました。

この県内の大学というのを見たところなんですけれども、信州大学で1990年に幕内先生が世界で初、成人間での肝移植を成功させています。そこから4年間信州大学にいらっしたんですが、その間、医学部にすごい人数の人が入ってきていたんですね。4年後に東京大学に行ってしまうと一気に人数が減ってしまったと。やっぱりそういう売り込みになる、知ってもらわなきゃいけないということとは絶対に何か一つ、必要なことだと思うんです。それをこう何か、いろいろな大学を見た感じ、今、国公立化とか、新しい学部をつくったりということは進めていらっしたんですが、どうしてもほかのところと比べると、やっぱり同じことをしているようにしか見えないなという感じがします。そうすれば、やっぱり同じことをしている地方と都会、どっちを選ぶか、それは、当然、都会になるなというのやっぱり自分では思うんです。そこで、もっと特色のある学校づくり、学部・学科づくりを進めていただきたいなと思っています。

3点目なんですけれども、僕の友達に、信州大学の農学部の生命機能科学コースというところに行ってみようかなと言っている友達がいて、その人の話を聞いてみたところ、そこでは、この長野県の特産であるマツタケについて、どんな生態なのかということ調査しているらしくて。それで、アルクマもそのマツタケのかぶり物をしてPRしていたときもありましたけれども。やっぱりそういう長野県ならではのものを推し進めているのであれば、そういうものをちゃんと外へ広告していくってことが必要だと思うんですよね。

アルクマもゆるキャラグランプリでは、1回、26位でしたっけ、になりましたけれども、やっぱり広告って大事だなと思ったんです。

高等教育コンソーシアム信州、Sネットというものがあったんですが、あれ本当にいいなと思ったんです。自分の、人の話を聞いていると、この大学のこの先生がいいんだよみたいな話は当然入ってくるので、この先生の授業を受けてみたいなっていうような思いは

あって、本当にこの取組はすばらしい。自分でも、あついいなと思ったんですけども。でも、よく考えてみたらこの企画、調べなきゃ知らなかったんですよ。もしこのまま長野県外の大学に行ったら、知らずにそのまま終わっていたと思います。やっぱりそういうもの、本当にいいものがあるんですから、やっぱりしっかりと広告していくという必要性があるんじゃないかなと思います。

ということで3点、1点は個人の能力ということになりますが、特色のある学部づくり、学校づくりというものと、もっと広告をしていったほうがいいんじゃないかなっていうようなことを思いました。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。いい発言だったと思っているので、ありがとうございます。ちょっと、私が長く話しちゃうとほかの人が発言できなくなるので、まず最初何人か、言いたい人、手を上げてみて。

【生徒】

私はもともと福島県から長野県に引っ越しをしてきたんです。それで、その引っ越してきた理由は、福島であった3.11の大震災が理由ではないんですけど、やっぱり福島と比べて長野県は地震とか、あと周りに海もないから津波も少ないですし、あと食品とか、高原野菜とか、いっぱいいい野菜とか、そういう放射能の危険性がないという点で見ると、その大学とかっていう観点ではないんですけど、その就職とか、その土地に住むというふうになったときにはすごく、ほかの県と比べては住みやすい土地なのかなって思って。

あと、特色を持たせて大学を知ってもらおうという点では、ここの佐久にもある佐久大学とか、あと県の看護の大学が、そういう看護系とか理系とかそういう大学が多いので、看護に強い大学がもっと増えれば、長野県に、看護をちゃんと学びたいという人が多く集まってくれるんじゃないかなと思いました。

あと、ほかの東京とか首都圏の場所と比べて、大学は大学でも、国公立大学というものが少し少ないのかなっていうふうを感じる点もあって、どうしても3年生は、国公立に行きたいなという人がかなり私たちの学校は多くて、ほかの学校の人たちもそうだと思うんですけど、そういう意思を持った人がほかの県に流れちゃうのはちょっともったいないかなって思って。国公立自体を県の中につくるというのはすごい難しいと思うんですけど、国公立じゃなくても、ほかの県にもあるように、私立大学でもすごく法律に特化していたりとか、あとはその医学系に特化していたりとかっていう大学もあるので、何か特色があ

る大学が少し多くあれば、学生の流出を防げるのではないかなって思いました。

あとは、その土地に住むという点では、経済効果を見込むという点では、何か人を呼べるような施設がもっとあってもいいんじゃないかなというふうに考えていて。例えば誰か有名なアーティストがライブに来るとなったときに、そういうのを、私、ライブとか行くのが好きなのでよく調べるんですけど、そうなったときに長野県でやってくれる大物アーティストって、ほかの県と比べてやっぱり少なくなってしまうんです。大阪とか東京とか、そういう大きなドームとかがあるというのから考えると、どうしても長野県ってそういうのが少ないので、そういうほかの県からそのためにわざわざ足を運んでくれるような施設があれば、経済効果ももっと増えるのではないかなって思いました。以上です。

【生徒】

自分は3年でもう進路が決まっていて、県外の国公立大学の医学部に決まっているんですけど。やはり、今、お二人が言ったように、何で県内の信州大学の医学部じゃなくて県外の国公立にしたのかというと、信大の医学部と言えればこれってというような特色がなかったことが原因、一つの理由です。

自分はスポーツドクターを志しているので、スポーツに特化した大学で医学を学びたいと思っていて、そういう観点でいろいろな国公立大学、私立の医学部も含めてですけど、その中から国公立を一個選んだんですけど、このスポーツに限らず、幅広い、いろいろ、医学の中でも幅広い分野がいろいろあって、その中のどれか一つに特化したっていう、そういう特色が信州大学にもあれば、またそれで人を呼び込むことができるんじゃないかと考えています。

その特色というのは、誰か1人、誰かこの教授がいるからこの大学はこれに特化しているって、そういうのではその教授がいなくなったときに、その教授のほうに人が引っ張られて行って、大学からは人がいなくなる、先ほどおっしゃっていたように大学から人がいなくなってしまうので、そうじゃなくて、例えばさっきのその教授のことだったら、その教授の技術だとか知識を大学に根づかせて、教授がいなくなってもその大学でその指導ができるだとか、そういうことを検討していったほうがいいのかと思います。

それとあと、この主に東信地区だと思うんですけど、この佐久の周辺だとか、この辺から松本とかそっちのほうに行くのって簡単に行けない。高速でちょっと回って行くか、電車でもそうですし、時間と費用がかかるので、その点もやはりこの佐久、長聖もそうですし、この東信地域から信州大学に行く人が少ない理由の一つなのかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。みんなに共通していたのが特色っていう話ですよ。まずそこら辺からちょっと話をすると、全く私もそうだなというふうに思っています。

何か県だったり、大学関係者が高校生の声を聞く機会を作ったらいいんじゃないかと思いました。

県では新しく県立大学をつくらうとしていますけれど、特色を出そうということで一生懸命考えて考えて今の形になっています。この県立大学をつくるに当たっては、やっぱりちゃんと勉強させなきゃいけないと思っています。ちゃんとお金を取っているんだから勉強をさせる環境をつくらなきゃいけないんで、パンフレットに大学の特長って書いてありますけど、少人数教育、1年生からゼミをやらせようという形で考えていますし、あと、これグローバルな視野を持って活躍できる人材をつくらうというので、英語の集中プログラムもやらせようという形になっています。

それから、1年生は、全員、寮に入れちゃおうと。これ実は反対意見もあったんですけども、近くから通うのにわざわざ寮なんか入れなくていいんじゃないかという意見もあったんですけども、寮にみんな入って同じ釜の飯を食って一緒に連帯感を持って、そして勉強して、あるいは地域にも、ちゃんと地域活動にも貢献しろということで、全員、寮に入れるということにしています。

それから、右側のほうのページには海外プログラムで、これグローバルマネジメントコースだけじゃなくて、食健康とか、こども学科とか、あんまりグローバルとはそう関係がなさそうな学科もあるんですが、全部グローバルだと思っています。農業だって、今、輸出をどうするか、みんな農家は考えなきゃいけない時代になっていますし、子どもの幸せを考えると、やっぱり世界標準でどんなことが行われているかということがわからなければ、狭い視野で子どもの幸せは語れない時代になっているんで、そういう意味では、何ていうか、マネジメント系の学部・学科だけじゃなくて、全員、海外に一遍行かせちゃえということで、この海外プログラムも入れています。これ、かなり特色をつくってきているつもりではありますが、まだこれ開学してないんで、明確にこうだっ見える形になっていないですけども。

それからもう一回戻ってもらって、理事長予定者、学長予定者と私が並んで写っていますけど、私、何ていうか、理事長と学長にはこだわりました。理事長予定者も学長予定者も私が選んだんでこだわりました。理事長と学長を一緒にするか、別の人にするかっていうのを考えたんですが、別にして、理事長予定者は経済界としっかりコミットできる人ということで、ソニーの社長をやった安藤国威さんに理事長をやってもらって、ビジネス界

とのつなぎ、それからこの学校の特色がもうイノベーションを、とにかくイノベーションを起こせる人材をつくるんだということでやっているんで、そっち側をリードしてもらおうと思っています。

学長予定者は、金田一真澄さんって、金田一春彦さんとか金田一京助さんのあの学者一家の金田一先生を学長予定者にして、金田一先生には、学びのほうを徹底的にやってもらおうと思っています。

今、文部科学省に大学設置認可申請中でもあり、そしてほかの大学から招く教員もいて教員名簿はまだ出せてないんで、さっきのみんなが言っている県立大学の特色はこれっていうのを、ちょっと抽象的なレベルですけど、かなり特色ある人たちが集まってきています。学者だけではなくて、実務の経験がある人も含めて入れているんで、そういう意味では、県立大学は特色を出しつつあるというのが状況です。

みんなが言っていることはもっともなんで、私もこの県立大学自体の特色はもっとしっかり出せるようにしていきたいと思いますし、また信州大学とか、長野県内の私立大学の学長さんとか理事長さんに会う機会もいっぱいあるんで、そういうときにまた皆さんの声もしっかり伝えて、とにかくうちの大学はこれが特色なんだと、これが強みなんだと、これを学びたい人たち、これをやりたい人たち、ぜひここに来てくれっていうことを発信できるようにしていきたいと思います。

それからアピールね、ちょっと長野県全体、アピール力不足だと私も思っています。私も思っているんで、そこは、大学の部分も含めて発信をしていきたいと思います。今、みんなが言ってくれたように、多分、薄っぺらな発信だとだめですよ。何かこんな大学がありますというんじゃなくて、やっぱりこれをやりたい若者来たれというようなことをもっとしっかりアピールできるようにしていきたいと思います。

それから、住みやすい土地であるということは移住したい県ナンバー1ということ、ほかの県の人から見たときには、多分、暮らしやすいと思ってもらえていると思います。でもずっと長野県に暮らしているとちょっと退屈だなとかね、いろいろ問題があるんで、問題があるというか、長く住み続けたいくなるインセンティブがまだまだ、私は長野県弱いと自分で思っています。さっきのコンサートの話とかも含めてね。

今度、佐久に武道館をつくれますけど、県立武道館。いろいろアイデアを出しながらいい建物になるようにしてきていますけれども、私が県立武道館をつくる時に注文したことは、武道だけの施設にしないでくれと言っています。今、言ったように、コンサートとかでも使えるようにということで、アーティストとか来たときに、動線がちゃんと確保できないとコンサートをやってくれないんで、例えばそういうこととかも考えてつくるよう

にしていますので、ちょっと東信地域でそういう施設が少ない、小さい施設しかないんで、そういう観点でも使ってもらおうというふうには考えています。

ただ、長野県全体を見たときにまだまだ施設が少ないなと私も思っています。私は行政の立場ですけれども、今までみたいに行政が立派な施設をつくる時代ではもうなくなってきていると思いますので、私は民間が投資してもらえるような県にしていくということがまず大事だと思っています。例えば、リニア新幹線で飯田にリニアの駅ができるんで、伊那谷周辺、リニア駅周辺、どうしようかというふうに思っていますけれども、そこには、県が立派な施設を何かつくるのは、予算さえつけば簡単と言えば簡単です。税金をいっぱい使わなきゃいけないけど、やるのは簡単ですけれども、多分、それではよくないなと私は思っていて、もっと民間のホテルとか、民間のコンベンションセンターを誘致できるような魅力ある地域にしていかなければいけないというふうに思っています。ぜひちょっとそういうことも含めて、より長野県が暮らしやすく、かつ魅力があふれる地域になるようにしていきたいなというふうに思っています。

それから看護の拠点にしたらいんじゃないかというのはいいアイデアですね。やっぱり、長野県の特徴って幾つかあって、その中でも、今一番、世界的にも関心が持たれているのは長寿世界一。長寿日本一だけど、日本自体が長寿世界一地域なんで、長野県は長寿世界一の地域だっていろいろなところで言っていますけれども、そういう中でやっぱり、保健・福祉系の取組っていうものに私は特色を出せると思っています。地域の保健指導員とか食生活改善推進員の皆さんがいろいろな活動をやっていたり、あるいは健康と密接に関係する食も、野菜・果物、いろいろな物が豊富だし、そういう意味で健康の分野での特色を出したいと思っていますので、看護系をもっと強化したらという話はちょっと頂戴したいなというふうに思います。

実は長野県立大学も食健康学科というのをつくる形になっていますけれども、この食健康も、長野県が長寿日本一であることを生かした学科にしていきたいなと思っていますので、さっきみんなが言っていた特徴っていうものは、私は県知事の立場だから特に強くそう思うのかもしれないですけれども、大学の特色であると同時に、やっぱり地域の特徴ともしっかり結びつけて特色を出していくことが重要だなと思います。そういう意味で、例えば今の看護、保健関係だとか、あるいは農業も多分、今までの農業技術だけじゃなくて、もっとマネジメントと一体となった農業を考えていかなきゃいけないだろうと思いますし、そうした地域の特徴とやっぱり大学の特色がある程度リンクして、相互にシナジー効果上がるような応援を県としてはしていきたいなと思います。

それから国公立大が少ないから、私立でももっと特色ある大学があったらいいんじゃない

いかというのは私も全くそう思います。今、地方創生の話の中で、私も含めて、多くの知事が国に対して文句を言っていることがあって、それは実は皆さんの希望とはもしかしたら逆かもしれないことを言っているんですけれども、東京の大学の定員増加を抑制してくれて言っています。みんなからは嫌われちゃうかもしれないんですけれども。

長野県の大学の定員って、今、1学年3,000人ぐらいですよ。東京、あるいは東京周辺の大学の毎年の定員増加が、1,000人、2,000人規模で平気で増えちゃっているんで、長野県の大学が幾ら頑張っても、どんどん定員が多いマンモス大学のほうに人が引き寄せられてしまうと。これはやっぱり、各大学の努力とか我々地域の魅力づくりが欠けているから、みんな東京の大学に行っちゃうんだということは、これ謙虚に反省しなきゃいけないと思うんです。

それにしても政府全体が地方創生だと、東京一極集中を反転させようと言っておきながら、何で東京の大学の定員をどんどん増やしているんだというのが我々の問題意識です。ですから、ちょっとここは、実際に大学をこれから目指す皆さんにとっては、本当はこの大学の定員が増えていれば俺が入れたのについていることがあるのかもしれないんですけれども、ちょっと世の中全体としては、今、そういう動きがあるということを知っておいてもらえばいいかなと思います。

私としては、長野県、今まで企業誘致とか一生懸命やっていますけれども、これからは学校誘致とか大学誘致、それから研究所誘致とか、あと、施設の話だけじゃなくて人の誘致っていうことももっとやっていく必要があるのかなと思っています。さっき言っていた特色の話で、教授じゃなくて学校に特色を持たせてもらったほうがいいんじゃないかという話がありましたけど、もちろん、私もそういう側面もあると思っています。ただ私は、逆に今は、実は人が人を呼ぶ社会になりつつあるんじゃないかなというふうに思っています。

この周辺でいけば、例えば、今、ワイナリーが増えています。日本の中でワイン用ブドウの生産量が一番多いのが、山梨県ではなくて長野県なんですけれども、今、そして若い人たちがワイナリーをつくりたいということで、長野県にどんどん来ています。それはいろいろな要因がありますが、一つ大きな要因は、多分、玉村豊男さんがヴィラディストで、自分でお金を出してワイナリー経営者を養成する場をつくっているということもあると思っています。そういう意味で、何ていうか、施設に人が引き寄せられるという側面もあるけれども、もう一つは、こういう人がいるからあそこで学びたい、こういう人がいるからここで暮らしたいって人たちがだんだん増えてきています。そういう意味では、実は人をひきつける魅力を出す上での元としても人が大事だというふうに私は思っています。

すので、そういう意味で人材誘致なんかも重要だと思っています。

それからあと佐久から松本、簡単に行けないって話は全くそのとおりで、これ県の基盤整備が不十分なことの裏返しだと思っています。でも、今、地域・地域ではかなり交通体系は改善されてきていると思っています。確かにちょっと、松本に信州大学の本部があって、いろいろな意味で、北信・東信・中信・南信が、若干、分断された感じがあるのが長野県の悩みの一つだと私は思っています。ちょっと、これまで以上に県内がより交流しやすいような交通環境はつくっていかなくちゃいけないなと思います。

現在、東北信には新幹線ができました。今、我々思っているのは、一つは、リニアの駅が南信、飯田にできるんで、そこを拠点にして、バスを中心とした交通網はしっかり整備していきたいと思っているし、もう一つ、松本空港の活性化を考えているんで、松本を起点とした県内の人の流れをどうつくるかということも考えていこうと思っていますので、この基盤整備の話は、2年、3年では済まないんで、皆さんが大学にいる間に見違えるように変わったというところまでいかないですけども、ぜひそこは改善はしていきたいと思っています。ただ、人口減少の中で、今までと同じようなペースで社会資本投資はできないんで、そこは、今ある資源を生かしながらという形にはならざるを得ないかなと思っています。

ちょっといろいろお話ししましたけれども、ほかの人たちでもいいですし、今、私が話したことについてもっと突っ込んだ話でもいいですし、どうですかね。

【生徒】

皆さんの話を聞いていろいろと考えていたんですけど、とりあえず、僕、マイケル・ジャクソンが好きなんです。もう死んじゃったんですけど、そのマイケル・ジャクソンが信州大学とかに来たら僕はもう100%、信州大学に行くなっていうことを思いました。やっぱり、CDはもう普及しているんですけど、CDやYouTubeで見るそのマイケル・ジャクソンより、やっぱり生で実際に触れ合って、その音楽を実際に体験してみるっていうのはやっぱり違ったことであると思いますし、そのCD、録画とかそういったものよりも、実際に何か自分で発見できたりするものが多いというふうに思います。

実際に、僕、中学校から佐久長聖中学校にずっと通っているんですけど、埼玉からこっちに来て、館生（かんせい）という形でずっと4年間、館（かん）にいるんですけど。中学校の館でとてもよかったって思うことが一つあって、それは、夜、先生が館にいてくれて・・・館とは寮です。その勉強も含めてなんですけど、ちょっと気さくに話し合ったりとか、あと自分の悩んでいることについてもいろいろと質問できる、そういうことができ

たのが、自分としてはとてもうれしかったことでした。

さっき、マイケル・ジャクソンが来たら僕は絶対行くって言ったんですけど、そういうように、何か特定の分野に特定した人を連れてくるのもいいかもしれないんですけど、僕としては、週一とかにさまざまな人を連れてきて、その講座を教わりたい人はどんどん教わって、というふうにしたほうがいいと思いました。

ですので、大学の寮も中学校の館みたいに、特定の分野にたけた人が寮に教えに来てくれて、その館生にはまた別に違った機会を与えるっていうふうなことも考えられるんじゃないかと思いました。

その館で先生に話し合ったりしていると、やっぱり気が合ったりして、その先生ととても仲良くなったりすることもできますし、職業についてもいろいろと話し合うことで自分の目指したいものが見つかったりもするので、そういった感じで、人材勧誘とか、あとその寮をどうやって使っていくのかも、そんなことを視野に入れて考えてもらいたいと思いました。以上です。

【生徒】

先ほど知事さんがおっしゃっていましたがグローバル時代に対応した大学をつくっていきたいということで、一つだけ提案させていただきたいと思います。

英語コミュニケーションが整った、そんな大学環境をつくっていただきたいと思います。ある本で読んだんですけど、日本人の英語のコミュニケーション能力は低いということで。ちなみに外国語としての英語のテスト、TOEFLの日本のランキング、全151カ国中、何番ぐらいだと思いますか。TOEFLのスピーキングの順位です。

最下位なんです。韓国、それから中国、北朝鮮、そういった国々にまでも負けてしまっているんですね。

英語ができないというのは、本当もう他国の人とのコミュニケーションがとれない、そんなことを意味すると思います。ですから、そういうコミュニケーションをとる場という環境をどんどん増やすことを図ってほしいなというふうに思います。以上です。

【生徒】

私は県外の大学に進学する予定なのですが、話し合いの最初のほうで、皆さん、大学の特色について多く話されていたんですけども。私は、地域にも特色を出して行って、その地域に興味を持ってもらうことで、地域に合った大学があったらそこに進学しようっていう人も多く出てくると思います。私が大学を訪れたときに、どこから来ましたかって聞

かれたので、長野県の佐久から来ましたと答えたら、大学の先生方に、ああ、佐久病院があるところだねというお答えをいただいて。母親に聞いても、他県に行って佐久から来ましたって言うと、佐久病院がある場所っていう話が多いらしくて。なので、ここら辺、佐久地域は医療系に力を入れているというイメージが、多分、他県の方からは大きいと思うので。

大学にその特色を持たせて興味を持ってもらうということも大変重要なことだとは思いますが、地域的にその特色があるものをもっと全面に出して行って、もっと県外の方から興味を持ってもらうということも重要だと思いますし、そうなれば、就職先ってなったときにも、では例えば佐久病院になってしまうんですけども、では佐久は医療が発展しているから佐久で働きたいなっていう、就職の先を長野県の佐久市に考えてくれる人もいると思うので、もっと地域に特色を持たせて、県外の方から興味を持ってもらうことが大変重要なことだと思いました。以上です。

【長野県知事 阿部守一】

はい、ありがとうございます。今の話は、まさに私がやらなきゃいけない仕事なんで、長野県の強みをもっと伸ばしていくようにしたいなと思っています。

長野県、さっき言ったように長寿県だし、高齢者の就業率が日本で一番高い県でもあり、それから、例えば日帰り温泉の数が日本で一番多い、癒される場が日本で一番多い場所だと思っています。私、今度の総合計画と並行して観光振興もやっていこうと思っています。

油井さんが宇宙飛行士になったけど、油井亀美也さんに、何で宇宙飛行士になったんですかって聞いたら、故郷の川上村から空を眺めて、こんな星がきれいに見えて、あそこについて行ってみたいなというふうに思ったからって言っていました。

野辺山の国立天文台をはじめ木曽の東大の観測所とか、宇宙関係の施設、実は長野県にいっぱいあったりするんで、それはやっぱりそういう、宇宙観測施設の皆さんにちょっと横の連携とってもらって、それから、今、星空観光をやっている地域もあるんで、そういうところと結びつけて、もっと宇宙県という発信をできないかということも考えたりしています。そういう意味で、ぜひちょっと長野県の特色を生かした取組は、私としてはしっかりやっていきたいと思っていますので、ぜひ期待に応えられるように頑張りたいと思います。

それから、マイケル・ジャクソンのすごいファン、いいね。私は全然世代が違うからビートルズなんだけど。今度、ポール・マッカートニーがまた4月に来日するんで、それ、県内に来ないからね、県内に来ないから東京ドームに行こうかと思っているんだけど。そ

ういう魅力をぜひ私もつくっていきたいなというふうに思います。

英語コミュニケーションは、私もいまだに英語の勉強をしています。いまだに英語の勉強をしても英語の会話が十分できてないなと思って。中学校から高校へ行って、大学へ行って、社会人になっても、実は英会話を習いに行ったり、相当お金もかけて時間もかけているんだけど、いまだにできないというのは、やっぱり最初の教えられ方が間違っていたんじゃないかなと。やっぱり日本の英語の教え方って、多分、コミュニケーションをさせるための英語になっていないんじゃないかなというふうに思います。

今でも、私、英語の勉強を家へ帰ってやっているんですけども。いまだにこうだったのかということがいっぱいありますよね。「a」とか「the」とかっていうのは本当はどういう意味なのとか、当たり前の話だけど、ただ何か「a」は1ですとかっていうふうに覚えていると、やっぱりコミュニケーションできないんだなっていうのを、今さらながらわかりましたので、ぜひ何か、そういう意味で、長野県がもっと中学とか高校レベルから、コミュニケーションに力を入れた英語、外国語学習ができるようにしていきたいと思っていますし、さっきの県立大学は、ぜひそういう教育をしっかり行っていきたいと思っています。

ちょっと時間がもうそろそろかな。ちょっと私からいいですか。

私からちょっと質問したいんですけども、まず、皆さん、将来、何になりたいかってすごくはっきりイメージしている人ってどれぐらいいるの？もう3年生の人たちは、大体決まっちゃっているんだよね。もし差し支えなかったらこんなことやりたいって教えてくれる？どうぞ。

【生徒】

僕としては、中学からずっと図書館にいて読書するのが好きだったんで、自分としては小説家を目指しています。

【長野県知事 阿部守一】

小説家ね。なるほどなるほど。あとは…、この辺、手が上がっていたよね。

【生徒】

小学校6年生のころにISS（国際宇宙ステーション）を見まして、課外授業で。それにすごい何か、最先端のことがあんな小さい光の中に詰まっているのはすごいなと思って、そこに感動しまして、今、宇宙分野で管制官を目指しています、運用管制官を。

【長野県知事 阿部守一】

すごいね、なるほど。ありがとうございます。

【生徒】

自分は昔からものを作ったりするのが好きで、あと同時に音楽を聞くのがすごい好きだったんで、ギタークラフトマンに、ギターをつくる・・・

【長野県知事 阿部守一】

ギターね。ギターは、長野県内、ギターをつくっているところあるよね。

【生徒】

そうですね。

【長野県知事 阿部守一】

ぜひ長野県内で就職してください。ほかは？

【生徒】

私は、医療の道に進もうと考えているんですけども、医療系の中でも、あまり認知されていない仕事なんですけど、臨床工学技士という仕事につこうと考えています。

私になろうと思った理由は、医師の方は自分の手で、その患者さんの悪い部分を取り除いて、体の状態をよくするっていうことなんですけれども、臨床工学技士は、機械を通して患者さんの体をよくしていくっていうことができるので。私の祖父が今から6年前に亡くなったんですけども、そのときに、もうだめだっていう感じのことをお医者さんから言われたときに、その遺体の処理とかもあるんですけども、全部、血抜きとかまでもう臨床工学技士の方がしてくれて、その医療の面というか、人を治すっていう面じゃなくて、人間的な面でもすばらしい人だなと思って、強い憧れを持ってなろうと思っています。以上です。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、はい、ありがとうございます。あとの子はまだこれから考えるっていう感じ？

はい、ありがとうございます。

ちょっと、もう一つ聞きたいんだけど、大学とか就職するときに、みんな結構県外に行

くんだよね。さっき大学の収容定員が少なく、特色ないじゃないかとかって言われたんだけど。例えば東京だとか、横浜だとか、大阪だとか、京都だとか、大都市で暮らしたいと思う人ってどれぐらい？例えば、みんなが行きたい大学や企業が長野県にあるか・ないかというのは別として、暮らすとしたら大都市のほうがいいよなっていうふうに思っている人と、長野県みたいな、長野県じゃなくても福島でもいいけど、いわゆる人口が密集してないところのほうがいいよなっていう人ってどれぐらい？やっぱり都市がいいよなと、若いうちは都市で頑張りたいっていうような感覚とかあるの？ちょっと本音で教えてほしいんだけどね。

私なんかどっちかという、若いころは都会のほうが遊ぶところもいっぱいあるし、人も多いし楽しいなと、正直、思うタイプだけどね。例えばアメリカだったらニューヨークみたいなところがいいじゃないかと。最近行ったときには、ちょっとニューヨークとかは疲れて嫌だなという年になってしまったなと思っているんだけど。何か、人がいっぱいいるところと人が少ないところ、どっちがいい・悪いじゃなくて、好き・嫌いがあると思うんだけど、どんな感じ？今、住むんだったら大都市がいいなっていう人はどれぐらいいるの・・・1、2、3、4。では、今、住むんだったら大都市じゃない、そんなに人がいっぱいいないところのほうがいいやという人は・・・本当？それ。

長野県知事が聞いているからそういうふうに言って、東京都知事が聞いたら逆のことを言ったりしないよね。どうして都会は嫌なの？

【生徒】

実は自分、ちょっとアレルギーとかぜんそく持ちで、父方の実家が埼玉にあるんですけど、そこに行くと、もう車から出た瞬間、くしゃみやせきやら鼻水やら止まらなくなっちゃうんで。

本当にもうこら辺の空気に馴染んで、もうずっとこら辺で生きてきているんで、もう将来になって大人になっても、やっぱりこら辺で貢献したいなというものがあって。

【長野県知事 阿部守一】

いいね。私も東京にいたとき、花粉症ですごかったけど、信州へ来たたらあんまりそんなにひどくならないなと思っているんだけど。

【生徒】

僕は一応、都会のほうに住みたいなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

都会か、どうして都会？

【生徒】

やっぱり利便性ということ考えたときにやはり、別に長野県かそうじゃないところかってそういうことじゃなくて、ただ単純にこう、都会のほうがアクセスもよかったりとかして。

【長野県知事 阿部守一】

便利な暮らしができそうだと。

【生徒】

はい。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。あなたは田舎派？

【生徒】

はい。

【長野県知事 阿部守一】

何で？

【生徒】

自分、お兄ちゃんが、今、東京で大学へ行っているんですけど、たまにこっちに帰ってきて、お金遣いとか何か自分と違うなと思って、こんなに荒くなりたくないなと思って。

【長野県知事 阿部守一】

お金、金遣いが荒くなっちゃう、そうだよ。時間がいっぱいあってお金が山ほどある人は都会は楽しいだろうなと思うんだけど、時間があんまりない人とかお金があんまりない人は、都会じゃないほうが多分いいと思うんだけどね。ありがとうございます。

あと何かちょっと発言してない人で、ちょっと今の話でコメントしたい人、いる？

【生徒】

僕も、どちらかというところの、長野県で住みたいなと思って。でも、働いたらやっぱり東京が、都会がよくて。それで、この佐久だと新幹線もありますし、結構そういう方、多いじゃないですか。そういう方がいいかなと。

【長野県知事 阿部守一】

働いたらっていうのは、それでは、もし君が働きたい場が佐久にあったら、こっちで働いてこっちに住んでもいいの。それとも、いや、働くときはやっぱり都会がいいやっていう感じなの。

【生徒】

やっぱり都会のほうが給料もいいですし。

【長野県知事 阿部守一】

給料はいいかもね。

でも生活費は高いよ。

【生徒】

僕も長期休業とかになると、いつも神奈川の川崎におじいちゃんとおばあちゃんがいて、そっちにいつもお世話になっていて遊んだりするんですけど。それでも、そうですね、何かやっぱり向こうをぶらぶら歩いたりするのはおもしろいし、買い物も。でも、やっぱり生活するならって思うとやっぱりこっちの方がゆっくりできるなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。両方いいところどりしたいっていうことだね。

何か一言も言ってない人で、まだ話し足りない人いるよね。どう、話してない人。

【生徒】

自分は、生活するならやっぱり都会がいいなと思うんですけど。長野県は、ここに行かないとこの物が売ってないとか、ここに行かないとこれができないとかがあって、都会に行くのと割とショッピングモールも同じところにまとまってあるんで、買い物もそこに行っ

たら一日で全部済ませることができし、やっぱり何かをするときに選択肢が多いなって思うので。

でも長野県、私も、さっき言っていたようにアレルギーとかが多いので、生活とかするには、食べ物とかもすごく長野県はいいと思うので。そうですね、何か長野県の施設がもっと便利なものだったら、ここで働いてみたいなって思います。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。やっぱり便利さがちょっと都会のほうが勝っているよねっていう話だよ。

【生徒】

私は、長野県とか、都会じゃなくて地方のほうに住みたいなって思っているんですけど。確かに地方のほうが都会とかに比べると便利じゃないこととかあると思うんですけど。都会とかと違って、地方は地方ならではのものとかが、伝統的なものとか、その地方でしかないこととかができる場所とかがいっぱいあると思うので、私は、どちらかというところ、その地域に根づいたこととかをやりたいような人というか、そういう感じなので、その地方でその地方ならではのことがしたいなって思っています。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。

【生徒】

個人的な問題なんですけど、人と関わるのが少し苦手なんで、都会はどこへ行っても人が多いようなイメージがあるんで、田舎でも、あまり人口が増えられると困る、増えてほしいんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。そうか、そういう率直な意見がいいな。なるほど、あんまり増えてほしくないか。

5 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

私は、最近、東京へ出張するたびに、人が多くて目が回るなと思っているので、私もあんまり増え過ぎないほうがいいなと思っています。同感です。

ちょっともう時間ですよ、時間、だいぶオーバーしちゃって申しわけないですけども。今日、いろいろ皆さんから、楽しい意見と、切実な意見と、我々が真剣に受けとめなければいけないという意見と、いろいろいただきましてありがとうございました。

私は、新しい5か年計画は、県民の皆さんと対話をしながらつくっていきたいというふうに言っているんで、皆さんのお話の中に出たことも、できるだけその新しい計画の思想の中には入れていけるようにしていきたいなというふうに思っています。

最後に、何というか、一つ、政治とのかかわりの話で、18歳に選挙権年齢が下がって、主権者教育ってやっていらっしゃるんですよ、佐久長聖もね。私は選挙で選ばれた立場なんで、皆さんにちょっと一つだけというか、私の、どういう感覚かということだけお伝えして、あとみんなで、政治にかかわるってどういうことってものを考えていてもらいたいと思います。

私は、皆さんぐらいの年ごろのころは全く政治に無関心な人間だったと思っています。社会人になっても、選挙は行くけど、別にそんなに強かに政治にコミットしようというような感覚は持ってない時代が長かったんです。こうやって皆さんから選挙で選ばれる立場になって感じることは、自分が投票する側だけしか経験してないときは、自分の1票って本当に効果あるのと。多くの選挙って何か決まっちゃっているような感じもするし、自分が行っても世の中変わるのというような思いがいっぱいでした。

今、逆にこうやって選んでいただく立場で感じることは、実は一人一人の皆さんの1票って、すごく私の力になっているんですよ。もちろん選挙活動をやっているときに応援してもらおう、声をかけてもらおう、そういうこともパワーになりますし、一人一人の皆さんが私の名前を書いて票を入れてくれるということが、私のモチベーションにもなっているし、県民のためにもう必死で頑張らなきゃなと、全力投球しなきゃなというモチベーションにもつながっています。

そういうことと同時に、投票に行かない無関心層が増えると、一部の人たちがいろいろな勝手なことをやっちゃいますからね。一部の声の大きい人たちとかね。何ていうか、やっぱり政治とか行政っていうのは、国民一人一人のためにあらねばいけないと、それは当たり前の原則だと思います。だけど、国民の半分も投票に行かないと、投票に行く人は、

コアに政治にコミットしている人たちがばかりということになっていけば、その一部の人のほうを向いて政治をしたほうが次も当選できるんじゃないかと、あるいは仕事が楽しいかという話に当然なりますよね。

だから、一人一人がちゃんと自分の声を上げる、自分の意思を表明するっていうことは、あんまり意味ないじゃんというふうに思いがちなところがあるけれども、私から見ているとすごく意味があるというふうに思っています。だから、そういう意味で、一人一人の1票っていうのは、それだけでガラッと世の中が変わるような力には確かになってない、なり得ないかもしれないけれども、一人一人の1票がなければ、世の中は皆さんが思うとおりには絶対ならないですから、ぜひそこはしっかり頭に置いて、これから社会とか政治にコミットしてってもらいたいなというふうに強く思っています。

私、アフリカの少年兵の社会復帰を応援しているNGOをやっている鬼丸昌也さんと何度も会って、いろいろ話したんですが、私自身、あんまりそんな認識はなかったけれども、アフリカってずっと紛争が絶えないわけですよ。それは、例えば資源の分取り合いだと。資源の分取り合いって何で起きているかといったら、それは、実は私たちがいろいろな物欲にかられているいろいろな物を買っている中に希少な資源があり、そういう物の取り合いで紛争になっている場合があります。

私が横浜市にいたときに、アフリカ開発会議を横浜市で開きました。そのときに、ノーベル賞をとったワンガリ・マータイさんという方が、「カーボン・ジャスティス」って、私が座っているすぐ斜め前あたりで盛んに言っていました。「炭素正義」と言っていたんです。何の話かといったら、要は温室効果ガスを先進国が出していると。そのおかげでアフリカとか、要するに気候変動に脆弱な地域は、干ばつが起きたり、豪雨が起きたり、そしてそれが原因で民族間の紛争が起きていると、そういうことを先進国がもっと自覚しろということでした。鬼丸さんが言っているのも、私たちが買い物するとき何気なく買っている物も、誰かの犠牲にもしかしたらなっているかもしれないよということを行っています。

そういう活動をしている鬼丸さんと話していれば、鬼丸さんが言っている言葉でなるほどなと思ったのは、私たち一人一人は微力かもしれないけど無力ではないと言っているわけですよ。微力、ちょっとしか力がないかもしれない、特に学生のみんなは、まだまだ社会に対してはちょっとずつしか力がないかもしれないけど、ゼロじゃないんですよ、ゼロじゃない。ゼロだったら幾ら足し算しても掛け算しても絶対ゼロからは大きくなるじゃないけれども、ゼロじゃなければ、マイナスは別だけど、ゼロじゃなければ、絶対足し算していけばどんどんどんどん大きなパワーになっていくんで。

私は、皆さんもこれから社会に出て、大学に進学したり社会に出たりして、いろいろな

ことにぶち当たったりして、いろいろなことを考えることがあると思います。そういう意味で、私は社会を動かしているのはやっぱり皆さん一人一人だっていう自覚をぜひ強く持ち続けてもらいたいなというふうに思っています。さっきも選挙の話、私、しましたけれども、一人一人の声がなければ、絶対、政治は動きません。一人一人のパワーがなければ、絶対、社会はよくなりません。一人一人が目指す姿を描いていくことがなければ、絶対、理想の地域とか理想の国には私はなっていないと思っています。

ぜひ、みんな一人一人が夢と希望をしっかり持って、それに向けて自分の道を歩んでもらうと同時に、社会、あるいは日本、世界、そういうところにも貢献していくという「志」を持って、これからの人生を歩んでいてもらいたいなというふうに思います。

ちょっと、最後、演説になっちゃって申し訳ないですけども、やっぱり若いということが何よりも皆さんの武器でもあると思っていますので、ぜひその若さを生かして自分たちの夢に向かって進んでいてもらいたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

6 閉 会

【広報県民課】

どうもありがとうございました。長時間、お疲れさまでございました。それでは、これをもちまして「県政タウンミーティング」を終了させていただきたいと思います。